

# 施策評価シート

幹事部局

環境生活部

<b>施策の名称</b>	VI-2-(1) スポーツの振興
<b>施策の目的</b>	県民一人ひとりが、それぞれの興味・目的に応じ、スポーツに様々な形で参加し、楽しく健康で生き生きと暮らせる社会をつくります。
<b>施策の現状 に対する評価</b>	<p>①(生涯スポーツ、地域におけるスポーツ文化の推進)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 総合型地域スポーツクラブの数は、平成30年度以降33クラブのままであり、新たなクラブの設立に向けた支援策の強化及び既存クラブの活性化支援が課題である。</li> <li>・ 島根県スポーツ・レクリエーション祭では前年より680人増の参加となったが、県政世論調査において「スポーツに取り組んでいる」と回答した人の割合は、近年38%前後と横ばいの状況が続いている。新型コロナによる運動施設の利用控えやイベント等の中止による影響も考えられるため、県民への意識啓発を一層強化することが課題である。</li> </ul> <p>②(競技スポーツの推進、学校体育の充実)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 3年振りの開催となった栃木国体において、男女総合43位、入賞は10競技と目標(男女総合30位台、入賞17競技)には届かなかった。総合優勝に向け、幅広い競技での入賞が必要である。</li> <li>・ 中学生、高校生の競技力向上の取組を行い、全国中学校体育大会、全国高等学校総合体育大会等の入賞数は70種目と、目標(62種目)を上回った。</li> <li>・ 運動部活動に参加する生徒が減少しており、学校体育等を通じて児童・生徒のスポーツへの関心を高めることが課題である。</li> <li>・ 令和12年開催予定の国民スポーツ大会については、令和4年12月に準備委員会総会を開催し、大会ロゴデザインの発表及び国民スポーツ大会38競技全ての会場地市町村を選定した。一方、1月に実施したしまねWebモニター調査では、7年後の国民スポーツ大会開催を知っている人の割合は47.8%であり、県民への認知度を高めていくことが課題である。</li> </ul> <p>(前年度の評価後に見直した点)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 小学生・中学生選手の発掘・育成のため、競技体験会やスポーツ教室を拡充した。また、各競技で選手強化が継続して行えるよう、入賞実績がないが強化が必要な競技にも強化費を配分するよう国体選手強化事業を拡充した。さらに、企業での選手・指導者の受入促進のため、支援金制度を設けることとした。</li> </ul>
<b>今後の取組 の方向性</b>	<p>①(生涯スポーツ、地域におけるスポーツ文化の推進)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 総合型地域スポーツクラブの組織運営や指導者育成を支援するため、しまね広域スポーツセンターと連携し、各種研修会の実施やクラブ・市町村訪問などを行い、クラブの活性化を支援する。また、県HPや広報媒体を活用し、総合型地域スポーツクラブの認知度向上を図る。</li> <li>・ 健康福祉部と連携し、健康づくりの観点からスポーツの大切さを啓発し、スポーツに取り組む契機とする。また、島根県スポ・レク祭などの情報発信、県立体育施設でのイベントや教室開催等、スポーツを楽しむ機会の提供を図り、継続的な運動習慣へつなげるようにする。</li> </ul> <p>②(競技スポーツの推進、学校体育の充実)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 島根かみあり国スポに向けた競技力向上の取組を継続する。具体的には、小学生・中学生の競技人口を増やすため、競技体験会やスポーツ教室などの競技に触れる機会を増やすほか、運動能力に優れた児童をアスリートキッズとして認定し、未普及競技の選手として育成する。少年種別については、教育委員会と連携して部活動指導体制が充実するよう、指導者の教員採用や教員の適性配置、外部指導者の活用を行う。また、選手・指導者の民間企業等での確保や、県外で活動する選手への「ふるさと選手登録」の働きかけを行う。</li> <li>・ 未就学児や小学生が運動遊びを通じて運動への関心を高める機会の提供や、体育授業において児童生徒の運動意欲を高める取組を行う。</li> <li>・ 競技人口の裾野を広げるためには、国民スポーツ大会の認知度向上も重要であることから、HPの充実や、大会のマスコットキャラクターしまねっこなどを活用した広報を強化する。</li> </ul>



事務事業の一覧

施策の名称	VI-2-(1) スポーツの振興
-------	------------------

	事務事業の名称	目的		前年度の 事業費 (千円)	今年度の 事業費 (千円)	所管課名
		誰(何)を対象として	どういう状態を目指すのか			
1	生涯スポーツ推進事業	県民	それぞれの体力や年齢、技術、興味、目的に応じ、生涯を通じてスポーツを楽しむ。	31,850	31,038	スポーツ振興課
2	国民スポーツ大会競技力向上対策事業	島根県スポーツ協会、各競技団体及び高校等に所属する選手、指導者並びに関係者	2030年に開催を予定している島根かみあり国スポでの天皇杯・皇后杯の獲得に向けて、各競技の競技力向上を図る	251,111	531,072	スポーツ振興課
3	県立体育施設管理運営事業	県民	施設の利便性を高め、施設利用者を増やすことにより、スポーツの普及を図る。	423,878	371,050	スポーツ振興課
4	国民スポーツ大会開催準備事業	県民、市町村、スポーツ関係団体、競技団体など	県民と一体となった大会の円滑な運営	50,647	56,224	スポーツ振興課
5	国民スポーツ大会競技施設整備事業	国民スポーツ大会の競技会場となる施設	2030年の国民スポーツ大会に向けて、各競技が円滑に実施できるよう、競技施設基準に基づき、各競技会場の整備等を行う。	12,649	227,982	スポーツ振興課
6						
7						
8						
9						
10						
11						
12						
13						
14						
15						
16						
17						
18						
19						
20						
21						
22						
23						
24						
25						

# 事務事業評価シート

## 1 事務事業の概要

担当課

スポーツ振興課

事務事業の名称		生涯スポーツ推進事業			
目的	誰(何)を対象として	県民	事業費 (千円)	令和4年度の実績額	令和5年度の当初予算額
	どのような状態を目指すのか	それぞれの体力や年齢、技術、興味、目的に応じ、生涯を通じてスポーツを楽しむ。		31,850	31,038
			うち一般財源 (千円)	29,281	27,938
令和5年度の取組内容	①広域スポーツセンターの運営、総合型地域スポーツクラブの活動支援、人材育成のための研修会等の実施 ②島根県スポ・レク祭、種目別大会及びスポレク広場の開催など、体を動かすことを楽しむ場の提供 ③総合型地域スポーツクラブ、放課後児童クラブ等の地域団体と連携し、軽スポーツ、レクリエーション活動に親しむ機会の提供 ④県民がスサノオマジックや地元スポーツチームと触れ合える機会の提供 ⑤スポーツ推進審議会において島根県スポーツ推進計画の取組状況の審議 ⑥スポーツ振興における顕著な功績、優秀な成績をあげた個人及び団体を表彰				
令和4年度に行った評価を踏まえて見直したこと	スサノオマジック以外の地元スポーツ選手による学校訪問や部活動指導を行い、子どもにスポーツへの関心を高めてもらう事業を展開				
1	上位の施策	VI-2-(1) スポーツの振興	3	上位の施策	
2	上位の施策	IV-1-(2) 地域で活躍する人づくり	4	上位の施策	

## 2 KPI(重要業績評価指標)の状況

KPIの名称		年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	単位	計上分類
1	スポーツに取り組んでいる人の割合【当該年度8月時点】	目標値		41.0	42.0	43.0	44.0	45.0	%	単年度値
		実績値	39.0	38.0	38.8	37.6				
		達成率	—	92.7	92.4	87.5	—	—		
2	総合型地域スポーツクラブ数【当該年度3月時点】	目標値		32.0	32.0	33.0	33.0	34.0	クラブ	累計値
		実績値	33.0	33.0	33.0	33.0				
		達成率	—	103.2	103.2	100.0	—	—		
KPIの他に参考とすべきデータや客観的事実										

## 3 現状に対する評価

成果	「目的」の達成に向けた取組による改善状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スポーツに取り組んでいる人の割合は、僅かに減少した。</li> <li>・総合型地域スポーツクラブは、増減なしであった。</li> <li>・島根県スポーツ・レクリエーション祭への参加人数は、新型コロナウイルス感染症の影響はあったものの、前年を上回る参加となった。</li> </ul>
課題分析	① 課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各種イベントや県有体育施設での教室等工夫をしているが、スポーツに取り組んでいる人の割合が伸び悩んでいる。</li> <li>・総合型地域スポーツクラブを新設する動きは少ない。また既存のクラブの中には、事務局体制の維持や自主財源の確保等に苦慮している団体もある。</li> </ul>
	② 原因	<ul style="list-style-type: none"> <li>・長引く新型コロナウイルス感染症の影響により、スポーツ施設の利用控え、スポーツ活動を控える傾向が見られた。</li> <li>・総合型地域スポーツクラブに対する県民の認知度が高まっていない。また市町村によっては、総合型地域スポーツクラブとの間に温度差がある。</li> </ul>
	③ 方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・総合型地域スポーツクラブの組織運営や指導者の育成を支援するため、しまね広域スポーツセンターが中心となって、各種研修会の実施や、クラブ・市町村への訪問などを行い、クラブの活性化を支援する。また、県HPや広報媒体を活用し、総合型地域スポーツクラブの認知度向上を図る。</li> <li>・島根県スポ・レク祭、種目別大会及びスポレク広場の開催などの情報発信、県立体育施設でのイベントや教室を行うことにより、スポーツを楽しむ機会の提供を図る。また、一過性の体験で終わらないよう、継続的な運動習慣へ繋げる必要がある。</li> <li>・健康福祉部と連携し、健康づくりの観点からスポーツの大切さを啓発し、スポーツに取り組む契機とする。</li> </ul>



# 事務事業評価シート

## 1 事務事業の概要

担当課

スポーツ振興課

事務事業の名称		国民スポーツ大会競技力向上対策事業			
目的	誰(何)を対象として	島根県スポーツ協会、各競技団体及び高校等に所属する選手、指導者並びに関係者	事業費 (千円)	令和4年度の実績額	令和5年度の当初予算額
	どういう状態を目指すのか	2030年に開催を予定している島根かみあり国スポでの天皇杯・皇后杯の獲得に向けて、各競技の競技力向上を図る		251,111	531,072
			うち一般財源 (千円)	244,507	292,138
令和5年度の取組内容	2030年に開催を予定している島根かみあり国スポでの天皇杯・皇后杯獲得に向けて、①組織体制の整備・充実、②選手の発掘・育成・強化、③指導者の養成・資質の向上、④競技力向上のための環境整備を実施				
令和4年度に行った評価を踏まえて見直したこと	競技力の低い競技団体に対しても強化支援を行うため、従来の成果主義を廃止して強化費の配分方法を見直すとともに、強化費総額を増額。また、アスリートの県内企業への就職を促進するため、一定の条件を満たすアスリートを雇用した民間企業に対する雇用支援金制度を創設				
1	上位の施策	Ⅵ-2-(1) スポーツの振興	3	上位の施策	
2	上位の施策	Ⅳ-1-(2) 地域で活躍する人づくり	4	上位の施策	

## 2 KPI(重要業績評価指標)の状況

KPIの名称		年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	単位	計上分類
1	国民体育大会選手派遣数【前年度1月～当該年度12月】	目標値		320.0	320.0	351.0	382.0	413.0	人	単年度値
		実績値	319.0	14.0	2.0	336.0				
		達成率	—	4.4	0.7	95.8	—	—		
2	国民体育大会年間入賞競技数【前年度1月～当該年度12月】	目標値		15.0	16.0	17.0	18.0	19.0	競技	単年度値
		実績値	14.0	0.0	0.0	10.0				
		達成率	—	—	—	58.9	—	—		
KPIの他に参考とすべきデータや客観的事実										

## 3 現状に対する評価

成果	「目的」の達成に向けた取組による改善状況	令和4年度より競技力向上の取組を島根県競技力向上対策本部で実施する形とし、県(スポーツ振興課)、県教育委員会(保健体育課)、県スポーツ協会が連携して事業を実施できる体勢を構築。
課題分析	①課題	「目的」達成のため(又は達成した状態を維持するため)に支障となっている点
	②原因	上記①(課題)が発生している原因 <ul style="list-style-type: none"> <li>多くの競技団体において、スタッフのノウハウ不足等により競技力向上の取組が効果的に進んでいない</li> <li>競技人口が少ない競技における小学生の活動が低調</li> <li>小学生の活動はあるが中学に部活がない等の理由により、中学で部活をやめてしまう</li> <li>高校生の優秀な選手が集まり、競争力を維持し、卒業後に成年選手として活躍する好循環を生むための取組が不十分</li> <li>成年選手の確保が十分でない</li> <li>中核となる指導者がいない競技がある</li> </ul>
	③方向性	上記②(原因)の解決・改善に向けた見直し等の方向性 <ul style="list-style-type: none"> <li>競技力向上対策本部職員が伴走型支援を実施</li> <li>運動能力が優れた小学生をアスリートキッズとして認定し、競技人口が少ない競技のアスリートとして育成</li> <li>社会体育で活動の場が確保できるよう、支援施策を検討</li> <li>スポーツ推進重点校の指定校を拡充。また、優秀な高校生が県外に流出しないための方策を検討</li> <li>ふるさと選手の確保に向けた取組及びアスリートの県内企業就職支援の取組を推進</li> <li>教員や企業等での指導者確保を推進</li> </ul>



# 事務事業評価シート

## 1 事務事業の概要

担当課

スポーツ振興課

事務事業の名称		県立体育施設管理運営事業				
目的	誰(何)を対象として	県民	事業費 (千円)	令和4年度の実績額	令和5年度の当初予算額	
	どういう状態を目指すのか	施設の利便性を高め、施設利用者を増やすことにより、スポーツの普及を図る。		423,878	371,050	
			うち一般財源 (千円)	381,956	321,783	
令和5年度の取組内容	①利用者に配慮した施設管理及び利用者ニーズに対応したスポーツ教室等の企画運営を行う ②利用者が安全・安心に利用できる施設とするため、各施設に必要な整備を行う (県立体育施設の管理は、公益財団法人島根県スポーツ協会が指定管理者として業務を行っている)					
令和4年度に行った評価を踏まえて見直したこと	引き続き感染症対策を講じた上で、新型コロナウイルスの5類移行に伴う利用者の増加を図る。					
1	上位の施策	VI-2-(1) スポーツの振興	3	上位の施策		
2	上位の施策		4	上位の施策		

## 2 KPI(重要業績評価指標)の状況

KPIの名称		年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	単位	計上分類
1	県立体育施設を利用した利用者数【当該年度4月～3月】	目標値		300,000.0	200,000.0	300,000.0	300,000.0	300,000.0	人	単年度値
		実績値	281,331.0	172,768.0	215,482.0	209,421.0				
		達成率	—	57.6	107.8	69.9	—	—		
2		目標値								
		実績値								
		達成率	—	—	—	—	—	—		
KPIの他に参考とすべきデータや客観的事実		武道館 39,352人 石見武道館 23,519人 水泳プール 73,325人 体育館 65,258人 サッカー場 14,028人 5施設計 215,482人 R3 41,142人 R4 22,520人 増減 1,790人 ▲999人 ▲3,567人 1,271人 ▲4,556人 ▲6,061人 (※サッカー場は8～3月工事により閉場)								

## 3 現状に対する評価

成果	「目的」の達成に向けた取組による改善状況	・県立有体育施設では、新型コロナウイルス感染症の感染対策を行いながら、工夫を凝らした教室やイベントを行った。 ・利用者が安心・安全に利用できるよう、施設の改修を行った(サッカー場、武道館)。
課題分析	① 課題	「目的」達成のため(又は達成した状態を維持するため)に支障となっている点
	② 原因	上記①(課題)が発生している原因
	③ 方向性	上記②(原因)の解決・改善に向けた見直し等の方向性
		・サッカー場の閉場期間があったためサッカー場の利用者は減少したが、その他の県立体育施設での利用者数がコロナ禍前の水準に戻っていない。 ・長引く新型コロナウイルス感染症の影響により、スポーツ施設の利用控え、スポーツ活動を控える傾向が見られた。 ・民間施設の開設により、利用者がそちらへ流れている。 ・引き続き新型コロナウイルス感染症の感染対策を行いながら、利用者が安心・安全に使える施設となるよう管理していく。 ・県立体育施設での魅力ある教室やイベントなどにより、利用者が増える取組や周知の工夫を行う。



## 事務事業評価シート

## 1 事務事業の概要

担当課

スポーツ振興課

事務事業の名称		国民スポーツ大会開催準備事業			
目的	誰(何)を対象として	県民、市町村、スポーツ関係団体、競技団体など	事業費 (千円)	令和4年度の実績額	令和5年度の当初予算額
	どういう状態を目指すのか	県民と一体となった大会の円滑な運営		50,647	56,224
			うち一般財源 (千円)	47,661	47,284
令和5年度の取組内容	令和12年の開催が内々定している大会の開催に向け、県民理解の促進を図る。 ①県民の認知度向上に向けた大会の愛称・スローガン、マスコットキャラクターを活用した広報グッズの作成・配布や新聞広報等の実施 ②競技開催予定施設の決定及び中央競技団体正規視察受け入れ準備 ③競技運営に必要な競技役員等を養成するため、競技団体が行う取組を支援 ④県・市町村連絡会議等を通じて先催県事例を情報提供すること等により、市町村との連携した準備を促進				
令和4年度に行った評価を踏まえて見直したこと	大会の認知度を向上するため、大会の愛称・スローガン、マスコットキャラクターを活用した広報活動を強化する。				
1	上位の施策	VI-2-(1) スポーツの振興	3	上位の施策	
2	上位の施策	IV-1-(2) 地域で活躍する人づくり	4	上位の施策	

## 2 KPI(重要業績評価指標)の状況

KPIの名称		年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	単位	計上 分類
1	国民体育大会選手派遣数【前年度1月～当該年度12月】	目標値		320.0	320.0	351.0	382.0	413.0	人	単年度 値
		実績値	319.0	14.0	2.0	336.0				
		達成率	—	4.4	0.7	95.8	—	—	%	
2	国民体育大会年間入賞競技数【前年度1月～当該年度12月】	目標値		15.0	16.0	17.0	18.0	19.0	競技	単年度 値
		実績値	14.0	0.0	0.0	10.0				
		達成率	—	—	—	58.9	—	—	%	
KPIの他に参考とすべきデータや客観的事実		[KPIの1～2の令和4年度実績について補足] R2・3年の国体本大会は、新型コロナウイルス感染症の影響により延期又は中止。選手派遣数は冬季大会の実績。年間入賞種目数は国体を除く中学生と高校生の全国大会の実績。 [他に参考となるデータ] 「しまねWebモニター調査」で「本県で令和12年に国民スポーツ大会及び全国障害者スポーツ大会が開催予定であることを知っている」と回答した人の割合は、令和5年1月調査で47.8%と、昨年対比2.8%向上。今後も、認知度に関する調査を継続。								

## 3 現状に対する評価

成果	「目的」の達成に向けた取組による改善状況	・令和4年12月に準備委員会総会を開催し、大会のロゴデザインを発表したほか、国民スポーツ大会38競技全ての会場市町村を選定。
課題分析	①課題	・大会開催の認知度が高いとはいえず、県民一体となって取り組むための理解を高める必要がある。 ・一部市町村においては、会場施設選定等の準備や、競技団体との調整が進んでいない状況。
	②原因	・効果的な広報活動が不足している。また、開催意義や目指す成果など含め、県民に訴求する機会が少ない。 ・一部市町村においては7年後の開催のイメージや、それまでの具体的な準備の進め方が分からない状況にある。
	③方向性	・大会の愛称・スローガンやロゴデザインを活用した効果的な広報を実施することにより県民の機運醸成を促進する。 ・先催県等から情報を収集し、各市町村の実情に応じたきめ細やかな情報提供に努める。また、関係競技団体との協議機会の創出などにより、具体的な準備が進むよう調整を行う。



# 事務事業評価シート

<b>1 事務事業の概要</b>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 30%;">担当課</td> <td>スポーツ振興課</td> </tr> </table>	担当課	スポーツ振興課
担当課	スポーツ振興課		

事務事業の名称		国民スポーツ大会競技施設整備事業			
目的	誰(何)を対象として	国民スポーツ大会の競技会場となる施設	事業費 (千円)	令和4年度の実績額	令和5年度の当初予算額
	どうい状態を目指すのか	2030年の国民スポーツ大会に向けて、各競技が円滑に実施できるよう、競技施設基準に基づき、各競技会場の整備等を行う。		12,649	227,982
			うち一般財源 (千円)	12,649	159,405
令和5年度の取組内容		・出雲市に自転車競技場を新たに整備するため、地質調査、測量、基本設計を行う。 ・各市町村が行う競技施設の整備事業に要する経費の一部を支援する。			
令和4年度に行った評価を踏まえて見直したこと		令和4年度6月補正で予算化し、実施している事業であり、見直しは行っていない。			
1	上位の施策	VI-2-(1) スポーツの振興	3	上位の施策	
2	上位の施策	IV-1-(2) 地域で活躍する人づくり	4	上位の施策	

## 2 KPI(重要業績評価指標)の状況

KPIの名称		年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	単位	計上分類
1	国民体育大会選手派遣数【前年度1月～当該年度12月】	目標値		320.0	320.0	351.0	382.0	413.0	人	単年度値
		実績値	319.0	14.0	2.0	336.0				
		達成率	—	4.4	0.7	95.8	—	—	%	
2	国民体育大会年間入賞競技数【前年度1月～当該年度12月】	目標値		15.0	16.0	17.0	18.0	19.0	競技	単年度値
		実績値	14.0	0.0	0.0	10.0				
		達成率	—	—	—	58.9	—	—	%	
KPIの他に参考とすべきデータや客観的事実		[KPIの1～3の令和3年度実績について補足] 国体本大会は2年連続で中止。選手派遣数は冬季大会の実績。年間入賞種目数は国体を除く中学生と高校生の全国大会の実績。								

## 3 現状に対する評価

成果	「目的」の達成に向けた取組による改善状況	令和4年度、令和5年度の市町村が行う競技施設の整備事業への支援は、美郷町が行うカーヌー競技施設の整備事業のみ。
課題分析	① 課題	施設整備費について、人件費や資材費の高騰等により、予算規模が膨らむことが想定される。
	② 原因	上記①(課題)が発生している原因 ・世界情勢の不安定等に伴う資材費の高騰等
	③ 方向性	上記②(原因)の解決・改善に向けた見直し等の方向性 ・令和6年度に全38競技の中央競技団体が、県内の全ての競技施設の現地確認を行い、改修等が必要な箇所を指摘することになっており、この指摘を踏まえ、計画的な整備に努めていく。

